



市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

党市政策委員長
石山忠義
Tel 67-3525

党県政対策委員
上田ゆみ子
Tel 68-2106

「すべての子どもたちにもゆきとどいた教育を求める」全国署名

富山県スタート集会

お金のことを心配しないで学びたい

今年で21回目を迎える「ゆきとどいた教育を求める」請願署名(愛称「30人学級」署名)の富山県スタート集会が8月22日、富山市で行なわれ、小矢部からも「みんなの会小矢部」などから参加しました。

親の経済的困難が

子どもに降りかかる

代表挨拶や基調報告では、社会的能力や人間的な情緒の発達に問題を抱える子どもたちが増え、学力が問題視される状況に加えて、親の経済的困難が直接的に子どもに降りかかってくる厳しい状況―授業料や学校納付金滞納、中途退学などの増加―を指摘しました。



スタート集会で挨拶する中村弘
之富山市教組委員長＝8月22日

“30人学級”運動 国政を動かすまでに

一方、長年の“30人学級”運動が世論をつくり、国政を動かすところまで来ていることも指摘されました。もはや“30人学級”をいっさい実施しないところは東京都のみになったこと、富山県では昨年80人のPTA会長を含む「少人数学級を求める緊急請願」が県議会で満場一致採択されたこと、文科大臣が「経済的理由で就学を

断念することの無いよう支援に努めたい」と国会答弁をしたこと、さらに今度の総選挙マニフェストでは「公立学校の授業料の無償化」(民主党)や、「給付型奨学金の創設」(自民・公明)など、これまで頑に拒否されてきた教育条件整備が書き込まれていること、など前進面も確認されました。

集会は、11月20日を最終集約日とし、県内で10万筆を目標に取り組みくと、近所の保育所や学校、事業所などにも協力を求め、教育のことをともに考える仲間を増やし、署名運動を成功させようと確認しました。そのあと富山駅前で行った署名行動をおこな



富山駅前ではピラを配り、署名を呼びかけるスタート集会参加者＝8月22日

30人学級はみんなの願い

非正規教職員で、子どもはほんとうに学びたいのか

高岡市教組からは、指導困難な子どもが増えている中で、非正規教職員が増えてきていること、私立にゆこうにもゆけない家庭の子どもに定時制進学希望が

増え、中卒の就職希望者には職がないなど、ほんとに教師が子どもと向かい合っている話、こまねばならない状況が深まっていることが報告されました。

奈良時代の 住居跡 水牧遺跡

新新幹線建設に伴う遺跡調査で若林地区水牧から飛鳥時代の土器、奈良時代の住居跡が発見され、8月22日に現地説明会が開かれました。

遺跡は大谷小学校の西側に位置し、小矢部川と黒石川に挟まれた微高地に立地しています。県道富山戸出小矢部線の南側から遺跡が発見されたのは珍しいことです。以前に行われた土地改良事業のときのブルドーザのキヤタピラ跡も見えました。当時、もう少し深く掘って工事をしていたら、遺跡が残らなかつたかもしれません。



奈良時代の竪穴住居跡で行われた現地説明＝8月22日。ハンドマイクを持っている人が立っている場所が竪穴住居の床面。そのすぐ右がカマド跡。その上の方に土器の破片が散らばっている。

食物を煮炊きしたカマドの跡も見つかっています。見つかった住居跡は4つで、広さは3畳から6畳くらいのものであります。説明員の話によると、住居は30年くらいで場所を移動して建て替えるとのことでした。

出土した土器には飛鳥時代のものも見られ、1400年前、聖徳太子が活躍していたころには、もうここに人が住んでいたことがわかります。